

コア語彙 2.1（検証版）からの変更点

独立行政法人情報処理推進機構

2015年2月3日

1. はじめに

2014年10月17日から2014年11月17日までの1ヶ月間実施されたコア語彙 2.1（検証版）に対する意見募集において多くのご意見を頂きました。本ドキュメントでは、これらのご意見に対応するため、コア語彙 2.1（検証版）から変更された点について記述します。

変更点は、「語彙設計に関する変更」、「用語の変更」、「XML・RDF スキーマに関する変更」に分けられます。

2. 語彙設計に関する変更

2.1. プロパティの汎用化

コア語彙 2.1（検証版）では、「人」のように事物を表現するものを用語として扱い、「性別」のようなプロパティ（用語と値の関係を示すもの）については、それぞれの用語に付属したものとして扱っていました。そのため、各プロパティが表現する意味も、属する用語に特化したものでした。コア語彙 2.2 では、プロパティは、用語に属するものではなく、用語から独立し、汎用的に用語と値の関係を表すものに変更されました。例えば、「施設」の「名称」と「組織」の「名称」は同じ「名称」であり、名称型により事物の名称を表現することを意味します。

この変更により、事物を表現する「用語」に加え、関係を表現するプロパティも用語の一種として扱うようになりました。事物を表現する用語と関係を表現する用語を明確に区別することが必要な場合は、前者を「クラス用語」後者を「プロパティ用語」と呼びます。

2.2. 用語の命名規則に関する変更

コア語彙 2.1（検証版）では、「性別-コード」や「姓名-カナ」のように、型や表記法が含まれる場合、ハイフン「-」により区切る方式を採用していました。コア語彙 2.2 では、ハイフンの使用をやめ、「性別コード」や「姓名カナ表記」のように、より日本語らしい用語となるよう命名規則が変更されました。

3. 用語の変更

3.1. 用語の階層のフラット化（階層の単純化）

他の用語からデータ型として参照されることが少ない用語については、独立した用語としないなど、用語の整理を行うことで、用語の階層のフラット化を行いました。データ項目を浅い階層により表現可能とすることで、コア語彙の適用が容易になりました。例えば、「住所」からのみ参照される「定型住所」の各プロパティを「住所」に含め、「定型住所」を削除することによって、コア語彙 2.1（検証版）では、「人」の「住所」の「定型住所」の「都道府県」と表現することが必要であった「都道府県」を「人」の「住所」の「都道府県」のように短くかつ日本語として自然に表現できるようになりました。

3.2. 地理座標の扱いに関する変更

「施設」や「建物」を管理や検索の対象としてだけでなく、地理空間上のあるエリアに配置されている物として表現することが容易となるように、「施設」や「建物」と「場所」の関係を見直し、次のような変更を行いました。

- 「施設」及び「建物」の継承元である「地点」を地理空間上の物という意味を表す「地物」に変更しました。
- 「地物」が「場所」を継承するように変更しました。
- 「座標」が点だけではなく、座標表現の業界標準となっている様々な書式により線や面を表現できるように拡張しました。

表1 変更点一覧

コア語彙 2.1(検証版)		コア語彙 2(バージョン 2.2)		変更理由
用語	プロパティ	用語	プロパティ	
ID 体系	発行者	ID 体系	発行者	より正確に記述するため、実体型に変更
ID 体系	発行者-ID			「発行者」プロパティの型変更に伴い削除
ID 体系	ID			「発行者」プロパティの型変更に伴い削除
イベント	地点	イベント	開催場所	「地点」から「地物」への変更に伴い変更
コードリスト	発行者	コードリスト	発行者	より正確に記述するため、実体型に変更
コードリスト	発行者-ID			「発行者」プロパティの型変更に伴い削除
コードリスト	ID			「発行者」プロパティの型変更に伴い削除
座標	度分秒			フラット化に伴い削除
座標				フラット化に伴い「度分秒」のプロパティを追加(「書式」プロパティは「緯度経度書式」に変更)。
座標		座標	座標データ書式	書式を指定して線や面を表現できるように追加
座標		座標	座標データ	書式を指定して線や面を表現できるように追加
施設	種別-コード	施設	種別コード	命名規則の変更に伴い変更
氏名	姓名-カナ	氏名	姓名カナ表記	命名規則の変更に伴い変更
氏名	姓名-ローマ字	氏名	姓名ローマ字表記	命名規則の変更に伴い変更
氏名	姓-カナ	氏名	姓カナ表記	命名規則の変更に伴い変更
氏名	姓-ローマ字	氏名	姓ローマ字表記	命名規則の変更に伴い変更
氏名	名-カナ	氏名	名カナ表記	命名規則の変更に伴い変更
氏名	名-ローマ字	氏名	名ローマ字表記	命名規則の変更に伴い変更
氏名	ミドルネーム-カナ	氏名	ミドルネームカナ表記	命名規則の変更に伴い変更
氏名	ミドルネーム-ローマ字	氏名	ミドルネームローマ字表記	命名規則の変更に伴い変更
従業員数		人数		プロパティの汎用化に伴い変更
住所		住所		フラット化に伴い「定型住所」のプロパティを追加
住所	表記-定型			フラット化に伴い削除

製品	分類	製品	種別	「分類」を「種別」に統一
製品	分類-コード	製品	種別コード	「分類」を「種別」に統一。命名規則の変更に伴う変更
製品	製造者-ID	製品	製造者 ID	命名規則の変更に伴い変更
製品	販売業者-ID	製品	販売業者 ID	命名規則の変更に伴い変更
製品	原産国-コード	製品	原産国コード	命名規則の変更に伴い変更
設備	管理者	設備	管理者	より正確に記述するため、実体型に変更
組織	地点	組織	地物	「地点」から「地物」への変更に伴い変更
地点		地物		概念を的確に表す言葉に変更。「場所」からの拡張に変更
地点	場所			「地物」が「場所」からの拡張となったことに伴い削除
定型住所				フラット化に伴い削除
定型住所	国-コード	住所	国コード	命名規則の変更に伴い変更
定型住所	都道府県-コード	住所	都道府県コード	命名規則の変更に伴い変更
定型住所	市区町村-コード	住所	市区町村コード	命名規則の変更に伴い変更
定型日時				フラット化に伴い削除
定型和暦日時				フラット化に伴い削除
電話番号		電話番号		xsd:string の拡張に変更
電話番号	国番号			削除。国番号は電話番号内に記述
電話番号	表記			xsd:string の拡張になったことに伴い削除
日時				フラット化に伴い「定型日時」及び「定型和暦日時」のプロパティを追加。
日時	表記-定型			フラット化に伴い削除
日時	表記-定型和暦			フラット化に伴い削除
日時	表記	日時	標準型日時	フラット化に伴い変更
人	性別-コード	人	性別コード	命名規則の変更に伴い変更
人	国籍-コード	人	国籍コード	命名規則の変更に伴い変更
人	出生国-コード	人	出生国コード	命名規則の変更に伴い変更
法人	組織分類位置	法人	組織種別位置	「分類」を「種別」に統一
法人	組織分類	法人	組織種別	「分類」を「種別」に統一
名称	表記-カナ	名称	カナ表記	命名規則の変更に伴い変更
名称	表記-ローマ字	名称	ローマ字表記	命名規則の変更に伴い変更
金額	通貨-コード	金額	通貨コード	命名規則の変更に伴い変更

金額型	値	金額型	数値	プロパティの汎用化に伴い値の型を表す名称に変更
数量	値	数量	数値	プロパティの汎用化に伴い値の型を表す名称に変更
測定値	値	測定値	数値	プロパティの汎用化に伴い値の型を表す名称に変更
長さ	値	長さ	数値	プロパティの汎用化に伴い値の型を表す名称に変更
面積重量	値	面積重量	数値	プロパティの汎用化に伴い値の型を表す名称に変更
容量	値	容量	数値	プロパティの汎用化に伴い値の型を表す名称に変更
		日付		時間を伴わない日付を表現するために追加

4. XML・RDF スキーマに関する変更

4.1. プロパティの識別子の生成規則の変更

コア語彙を XML や RDF などの物理形式で表現する際、コア語彙 2.1（検証版）では、プロパティの識別子を、「人_性別」のように用語名とプロパティ名をアンダースコア（_）で接続することになっていました。

コア語彙 2.2 では、プロパティの汎用化により、プロパティを独立した用語として扱うことになったことに伴い、識別子を「性別」のように用語名を伴わない形式としました。